

患者様向け

Ⅰ. 口腔健康管理の重要性

お口のケアを大切に ～歯科受診のすすめ～



これからがん治療を受けられる皆さんは、治療中に「お口が渇く」「食事の味が変わった」「歯がしみる」「歯肉から血が出る」そして「口内炎で食事がとれない」などの様々な症状を経験するかもしれません。その原因としては手術・化学療法・放射線治療などの影響でお口の環境が変わることが考えられます。

がん治療後はすみやかに主治医と相談し、かかりつけ歯科医を受診、もしくはがん相談支援センターなどでお近くの歯科医院を紹介してもらい、まずは歯科医にお口の状態のチェックを受け、必要があれば歯科治療を受けましょう。

お口のケアは、むし歯や歯周病予防のためだけでなく、全身の健康を守るためにとっても大切です。お口の状態を良好に保つことは糖尿病をはじめとした生活習慣病の予防や治療にも効果があることが分かっています。

また骨への転移を抑制する薬剤が投与されている患者さんや、首から上の放射線治療を受けた患者さんは歯科治療に慎重な対応が求められ、医師と歯科医師との緊密な連携が必要です。

そして何よりも美味しい食事をお口から食べることが出来れば、栄養状態も改善し生きる力になります。また必要により手術や化学療法、放射線治療を開始する場合にも普段からお口のケアを大切にしていると円滑に治療を進めることが出来ます。

お口の健康は全身の健康に繋がります。

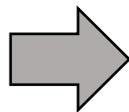
これから外科手術を受ける方へ

全身麻酔の手術では、口や鼻から人工呼吸器用の管（気管内チューブ）が入ります。このとき、お口の中の衛生状態が悪い方は、この管を通してお口の中の細菌が肺に入り、肺炎の原因になる可能性があります。手術をする部位によっては傷の治りが遅れることもあり、その結果、入院の期間が長くなる可能性があります。

またグラグラしている歯があると、人工呼吸器用の管を通す際に歯が抜けてしまったり、被せ物や詰め物、差し歯が外れることもあります。

そのようなことが無いように手術前に歯医者さんで、お口の中をきれいに掃除し、グラグラしている歯があれば、必要に応じて歯を抜いたり、固定したり、予防装置（マウスピース）を作成してもらいましょう。

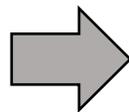
お口の汚れ



誤嚥性肺炎

手術後、口の中の細菌が誤って肺に入ってしまうことにより、肺炎が引き起こされることがあります。

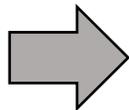
(お口の細菌)



手術後の創(傷口)感染

頭頸部、消化器、呼吸器などの手術の傷口に口からの細菌がついて感染することがあります。

偶発事故の防止



マウスピースによる固定

被せ物・詰め物の脱離と動揺歯の脱落

これからがん薬物療法を受ける方へ

薬で、がんの細胞が増えることを阻害したり、抑制したりする治療をがん薬物療法（いわゆる抗がん剤治療）といいます。この中には従来からおこなわれている化学療法に加え、最近では分子標的治療、免疫療法があります。

化学療法を始めると免疫力が低下するため、お口の渇き、味覚異常、痛みを伴う口内炎などの不快な症状を起こし、思うように食事が摂れなくなったり、話がしにくくなったりします。また、分子標的治療や免疫療法でも薬の種類によっては口内炎に悩まされます。場合によっては、薬物療法を中止しなければなりません。

これらの不快症状を和らげ、薬物療法がスムーズに行われるために、歯医者さんにあらかじめ相談しましょう。

● 抗がん剤治療中に起きやすいお口のトラブル

◆口腔粘膜炎

◆ウイルス性口内炎

◆口腔乾燥症

◆知覚過敏

◆味覚障害

◆歯肉出血

◆口腔カンジタ症

これから放射線治療を受ける方へ

放射線治療は、がん細胞を消滅または減少させる治療です。照射技術を駆使し、がん細胞だけに照射するようにしても、正常な細胞がダメージを受けてしまうことは避けられません。

首から上のがんで放射線治療を受ける場合、お口の細胞は放射線の影響を受けやすく、唾液の減少によるお口の渇き、味覚異常、口内炎など様々な症状が現れます。また放射線治療後は、お口の乾燥によるむし歯の多発や歯周病の悪化、抜歯などの歯科処置によりあごの骨が壊死することもあります。

放射線治療が始まる前に歯医者さんで、お口の状態をチェックしてもらい、抜歯の必要な歯があれば、治療が始まる前に抜歯を済ませ、治療にともなう症状の重症化を防ぎましょう。また金属冠による放射線の乱反射を防ぐために、マウスピースを作ることもあります。

● 「頭・顔・首」などの放射治療で

◆口内炎ができる

◆お口が乾燥する

◆むし歯になりやすくなる

◆骨髄炎(あごの骨の炎症)になりやすくなる

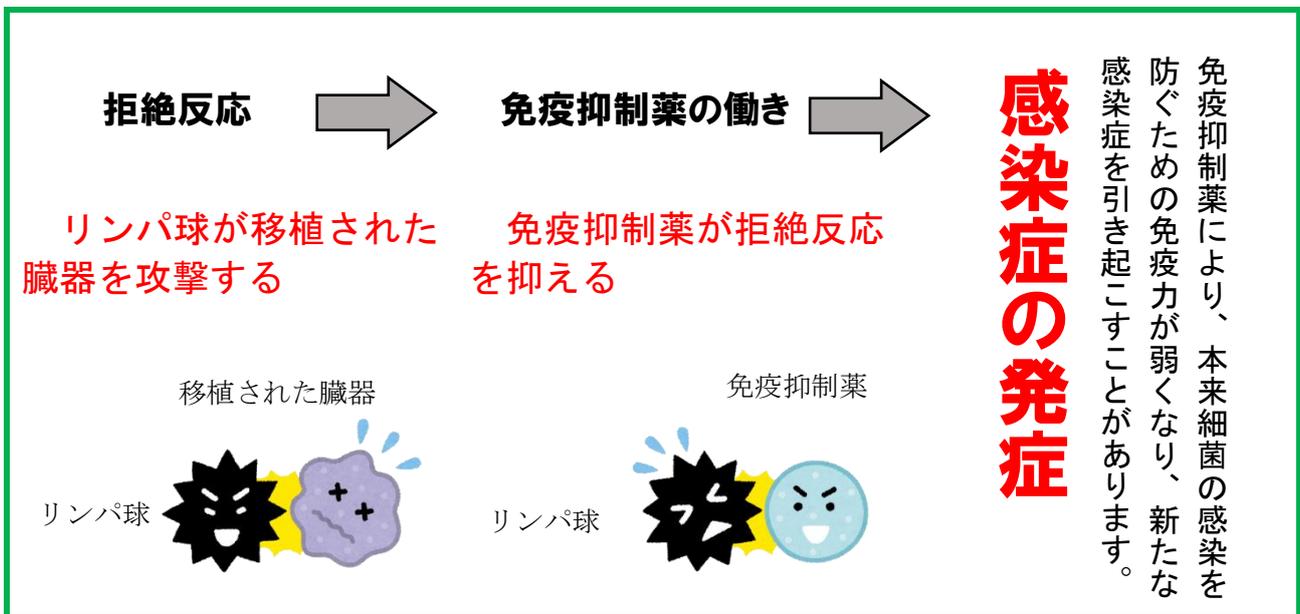
◆皮膚の赤み、かゆみが出やすくなる

これから臓器移植手術(造血幹細胞移植を含む)を受ける方へ

臓器移植手術後の最大の課題は、拒絶反応と感染の防止です。

術後の拒絶反応を抑えるために使用される免疫抑制剤が原因で、お口の中の細菌により感染症が発症することもあります。また慢性の拒絶反応としてお口の中がただれ、口腔がんになりやすい状態となってしまうことがあります。

臓器移植を担当される主治医とよく相談し、適切な時期に歯医者さんに行きましょう。



これから心臓血管手術を受ける方へ

お口の細菌が血管を伝わり、手術後に合併症を引き起こすことがあります。むし歯菌や歯周病菌は感染性心内膜炎を引き起こす最も代表的な菌です。感染性心内膜炎は命に関わりますので、心臓の弁に不調のある方やこれから冠動脈バイパス手術、人工弁置換手術、先天性心疾患などの手術を受けられる方は前もってむし歯や歯周病をしっかりと治しておく必要があります。これは手術の予後に大きく影響を与えることがあります。

お口の健康管理を術前から始めるのはもちろんのこと、手術後も専門のお口のケアを継続してゆくことによって合併症を予防することができます。

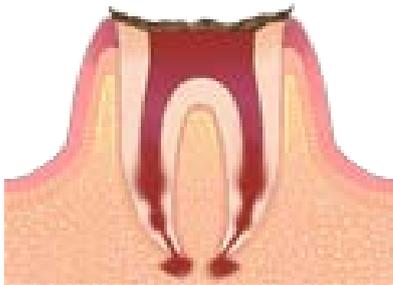


これから骨粗しょう症薬などによる治療を受ける方へ

骨粗しょう症薬は骨密度の改善に使用されるほか、がんの骨転移の進行を押さえ、痛みの緩和などに使用されるお薬です。とても効果のある薬ですが、副作用として抜歯などの歯科治療や歯周病、慢性的な歯による炎症、入れ歯でできた傷などが原因であごの骨が腐ることがあります。

骨粗しょう症薬による治療を受ける前には歯医者さんに行って、治療とお口のケアをしてもらうことが極めて重要です。さらに、骨粗しょう症薬による治療が開始された後も、あごの骨が腐ることを予防するために、お口の中を清潔に保ち、歯医者さんに行って定期的な歯科検診や口腔衛生指導を受けましょう。

慢性炎症



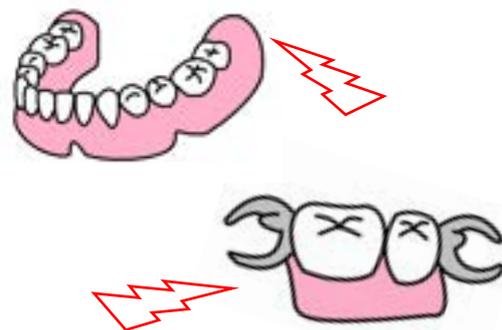
重度の歯周病



歯の破断



義歯の不適合

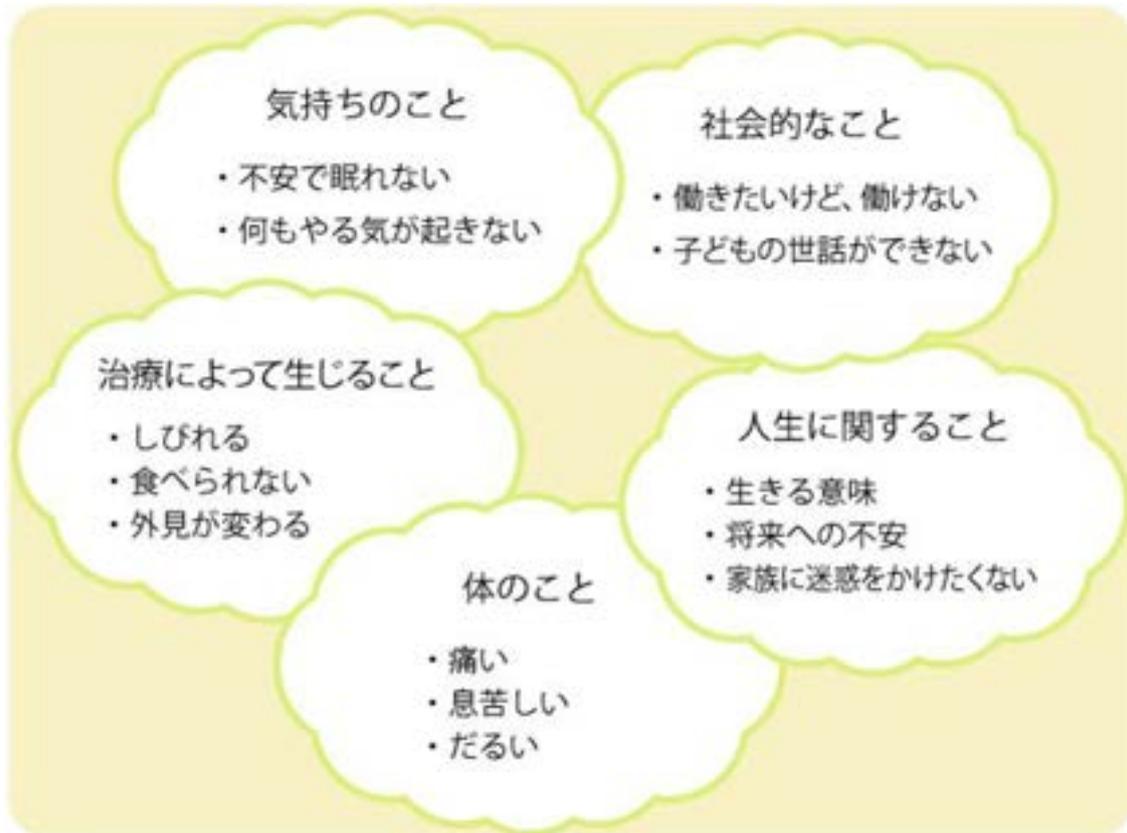


緩和ケアと歯科医療

緩和ケアとは主にがんによる身体の苦痛、心のつらさ、社会的な問題によるつらさなどを含めて、総合的に患者さんやそのご家族のつらさをやわらげるサポートです。医師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、栄養管理士、心理士など様々な職種の方たちが患者さんに向き合い取り組んでいます。

近年、患者さんのいつまでもお口でものを食べたいという気持ちと体調を長く維持するためにはお口で食べることが重要であると再認識されてきました。そのために歯科医療従事者も、患者さんが自分らしく納得のいく生活の質の維持を目指すという治療に参加するケースが増えてまいりました。

● がんに伴う心と体のつらさの例



国立研究開発法人国立がん研究センターHP「がん情報サービス」より引用

II. がん診療医科歯科連携における基本的な流れ(概要版)

